

教 育 研 究 業 績

氏名 羽 岡 佳 子

学位： 修士（教育学）

研 究 分 野

研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド

教育学 / 小学校体育科に関する実務

身体教育学、教科教育（体育）、身体表現

主要担当授業科目

保育指導法演習（健康と表現）、運動遊び演習、子どもの身体表現A・B、
体育科指導法、キャリア形成（子ども領域）A、課題研究A・B

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項

事項

年月日

概要

1 教育方法の実践例

1) コミュニケーション力・表現力を高めるための演習を取り入れた授業の実践（山村学園短期大学、新渡戸文化短期大学、実践女子大学、東京成徳大学）

平成 21 年
4 月～
現在に至る

山村学園短期大学における「幼児体育」「身体表現」「リトミック・リズム運動」や新渡戸文化短期大学における「小児体育Ⅰ」「身体表現特講」、実践女子大学「保育内容 f（表現）」において、コミュニケーション力や表現力を身につけ、高めるためのアクティビティの提供やグループワークを行い、学生相互の発表の機会を多く設けている。また、模擬保育としてのロールプレイを通して保育技術や協働性を身につけるための授業を展開している。

2) 保育者に必要とされる基礎知識の理解を深め、技能を身につけるための授業の実践（新渡戸文化短期大学、東京成徳大学）

平成 28 年
4 月～
現在に至る

新渡戸文化短期大学における「子どもの生活と健康Ⅰ」「子どもの生活と健康Ⅱ」、東京成徳大学「保育指導法演習（健康と表現）」において、各授業回のテーマに沿った教材を提供し、グループディスカッションやロールプレイなどの体験的な授業を行う中で学生の学びを深める授業をデザインしている。

3) ICT を活用したレポート指導（新渡戸文化短期大学（manaba folio）、東京成徳大学（UNIPA））

平成 29 年
10 月～
現在に至る

新渡戸文化短期大学「保育実践演習」、東京成徳大学の授業において、個々の学びを深める手段の一つとして教育支援システム（manaba folio/UNIPA）によるレポートを課し、提出された内容に対してコメント・指導を行っている。学生個人の学習成果をフィードバックすることで、学びを深化させている。

4) ICT（Power Point）を活用した発表指導

平成 29 年
10 月～
現在に至る

新渡戸文化短期大学「保育実践演習」、東京成徳大学「保育指導法演習（健康と表現）」「課題研究」の授業において、Power Point を用いた研究発表の内容と方法の指導を行っている。

2 作成した教科書、教材

【教材】

授業における配布資料・レジュメ・ワークシートの作成

平成 21 年
4 月～
現在に至る

「幼児体育」「身体表現」「リトミック・リズム運動」「保育内容 B」「保育内容 C」「スキルアップセミナー」「子どもの文化演習 C・劇」（以上山村学園短期大学）、「小児体育Ⅰ」「身体表現特講」「スポーツ実技」「スポーツ科学」「保育実践演習」（以上新渡戸文化短期大学）、「保育内容 f（表現）」（実践女子大学）、「体育応用」（共立女子大学）、「保育指導法演習（健康と表現）」「運動遊び演習」「子どもの身体表現 A」「子どもの身体表現 B」「体育科指導法」（東京成徳大学）の各科目において、各授業回のレジュメやワークシートを作成し、学生が理解を深めるための工夫を行っている。

3 教育上の能力に関する大学等の評価
大学における自己点検・自己評価／学生による授業評価

4 実務の経験を有する者についての特記事項

1) 公開講座・ワークショップ講師

平成 21 年
8 月

埼玉県鳩山町主催「つどいの広場(ぽっぽ)」子育て教養講座⑤において、講演「だれもがもっている あったかハート～道徳性のめばえ～」と題して講師を務めた。

2) 小学校でのワークショップ講師	平成 22 年 2 月	埼玉県鶴ヶ島市鶴ヶ島脚折児童館・子育てセンター共催事業 子育て講座において、「音とからだで あそぼう！ 楽しもう！ ～わくわく どきどき 親子でリトミック～」の講師を務めた。
	平成 22 年 3 月	埼玉県鳩山町主催「つどいの広場（ぽっぽ）」子育て教養講座⑫ において、「子どもとうた～親子でうたって遊ぼう～」と題して 講師を務めた。
	平成 24 年 3 月	埼玉県飯能市・飯能市教育委員会主催の生涯学習フェスティバル において、「来て 見て はじめる！ 学び人ひろば」と題し た企画として子ども向けワークショップの講師を務めた。
	平成 24 年 5 月	埼玉県鳩山町主催「つどいの広場（ぽっぽ）」5 月子育て教養講 座において「親子でヨガ遊び」と題して講師を務めた。
	平成 26 年 4 月～6 月	練馬区の都立高等学校にて、ミュージカル体験の為の授業の講 師を務めた（分担制）。
3) 職員研修講師	平成 27 年 9 月	墨田区の公立小学校にて、世界のダンス体験のための授業講師 を務めた。
4) 作品講評者	令和 5 年 2 月	板橋区の令和 4 年度児童館職員職務研修において、親子で楽し む身体表現あそびについての講師を務めた。からだを通してふ れあう遊びを通じて子どもの発達段階に応じた支援の方法や 様々な表現のおもしろさを引き出す指導について講義と演習を 行った。
5) その他	令和 6 年 8 月	「第 36 回全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）」参 加発表部門の作品、全 46 作品中 15 作品分について、作品の講 評を行った。
1) 公益社団法人 日本女子体育連盟 特別 会員	平成 20 年 4 月～現在 に至る	現在まで特別会員として「未来世代の研究発表会」事業や AJDF 「全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）」事業、その 他の大会で委員としての担当を担った。
2) 公益社団法人 日本女子体育連盟 研究 交流専門員会 副委員長	平成 22 年 4 月～平成 29 年 3 月	研究交流専門委員会副委員長として、「未来世代の研究発表会」 の仕事を担当した。
3) 公益社団法人 日本女子体育連盟 研究 交流専門員会 委員長／AJDF-Kobe 専門員会 副委員長	平成 29 年 4 月～平成 31 年 3 月	研究交流専門委員会委員長として、「未来世代の研究発表会」の 責任者を務め、同時に AJDF 神戸専門委員会副委員長として、「全 日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）」の上演を担当した。
4) 公益社団法人 日本女子体育連盟 理事 ／AJDF-Kobe 専門員会 委員長	平成 31 年 4 月～令和 3 年 3 月	AJDF 神戸専門委員会委員長として、「全日本高校・大学ダンス フェスティバル（神戸）」の上演責任者を務めた。
5) 公益社団法人 日本女子体育連盟 研究 交流専門員会 副委員長	令和 7 年 4 月～	研究交流専門委員会副委員長として、「未来世代の研究発表会」 の仕事を担当。
6) 日本教育大学協会 全国保健体育・保健 研究部門 舞踊研究会 理事	令和 7 年 4 月～	理事として、研究会・大会運営を担当。
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許 1) 中学校教諭 1 種免許状（音楽）	平成 12 年 3 月	平 11 中 1 種第 2732 号・埼玉県教育委員会
2) 高等学校教諭 1 種免許状（音楽）	平成 12 年 3 月	平 11 高 1 種第 2985 号・埼玉県教育委員会

3) 小学校教諭専修免許状	平成 15 年 3 月	平 14 小専修第 1036 号・埼玉県教育委員会
4) 中学校教諭 2 種免許状 (体育)	平成 18 年 3 月	平 18 中 2 種第 17 号・埼玉県教育委員会
5) 高等学校教諭 1 種免許状 (体育)	平成 18 年 3 月	平 18 高 1 種第 266 号・埼玉県教育委員会
2 特許等		該当事項なし
3 実務の経験を有する者についての特記事項 1) 板橋区研究委員・推進委員	平成 19 年 4 月	東京都板橋区学習指導改善研究委員を務めた。(平成 20 年 3 月まで)
	平成 20 年 4 月	東京都板橋区教育課程推進委員を務めた。(平成 21 年 3 月まで)
2) 世田谷区学校関係者評価委員	平成 28 年 4 月～現在 に至る	世田谷区立世田谷小学校学校関係者評価委員を務めた。
4 その他		該当事項なし

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文) 1. 「現代の舞踊における即興－山田せつ子 (1950-) を通して」	共著	平成 16 年 3 月	埼玉大学紀要 教育学部 (教育科学Ⅱ) 第 53 巻 第 1 号 (2004) (pp. 89-103)	著者: <u>羽岡佳子</u> 、細川江利子 舞踊家山田せつ子のとらえるイメージと動きの関係について、山田の舞踊思想や自身の稽古、作品創作場面から考察を行った。その結果、言葉を元に次々と新しい具象的なイメージを湧出し、動くことによって、さらにとめどなくイメージと動きを生み出す、あたかも永久運動のような関係が成立することが明らかになった。
2. 「舞踊におけるクリエーション・スキルに関する研究－現代舞踊家による即興表現から作品創作への展開を事例として－」	共著	平成 20 年 3 月	(社) 日本女子体育連盟学術研究第 24 号 (2007) (pp. 41-54)	著者: 細川江利子、寺山由美、 <u>羽岡佳子</u> 即興表現を行っている 2 名の現代舞踊家、ケイ・タケイと山田せつ子を対象とし、即興－作品創作実験および面接調査を行い、彼らの即興から作品創作におけるクリエーション・スキルを明らかにすることから、表現・創作ダンス授業の指導に役立つ資料を得ることを目的とした。その結果、即興表現から作品創作への過程では、特に身体イメージ能力の獲得が重要であり、身体イメージ能力の獲得が、常に自由に、新鮮に展開される感覚的創作を実現すること。その上で、コンセプトの設定や動きの選択には、学習によって身に着けたスキル、すなわち表現的動きを創出する能力が知的に働くことが明らかになった。

3. 「グループインタビューによる『つどいの広場』利用者の子ども・子育て支援ニーズ調査」	共著	平成 24 年 3 月	山村学園短期大学紀要第 23 号 (pp. 51-68)	共著者：橋本淳一、村石理恵子、 <u>羽岡佳子</u> 、山村穂高、鈴木孝子 A 県 B 町「つどいの広場」利用者へのグループインタビュー調査から、地域における子育て環境や子育て支援サービスの利用状況、困ったり悩んだりしている出来事などを具体的に把握し、利用者の子ども・子育て支援に関する今日的ニーズを探ることを目的としている。結果より、特に「親子での遊び場」について困っているという記述が最も多く見られ、遊び場の不足による子どもの身体的発育・発達に対する不安、感性や情緒の育ちについての不安などが挙げられた。それらのニーズに対して、今後どのように行政が対応していくかが大きな課題である。
4. 「子どもとの関わりにおける運動遊びの意識調査—教育実習 I の事後アンケートより—」	単著	平成 30 年 2 月	新渡戸文化短期大学子ども教育研究所紀要 第 13 号 (pp. 50～57)	保育者志望の短期大学 1 年次生に対して、健康・生活・運動に関するアンケート A と教育実習 I 中の運動遊び・身体活動全般に関するアンケート B を行い、学生の健康・運動に関する実態を把握し、学生と子どもの運動遊びでの関わりを探った。結果より、教育実習 I 中には、子どもを主眼に置いた運動遊び全般に関する記述が多く、学生は「体操」や「鬼ごっこ」、固定遊具で子どもと共に活動を行ったことが分かった。また、保育者の援助に関してもよく観察を行っていることが明らかとなった。
5. 「幼児教育と小学校教育の接続に関する動向—保幼小連携の研究動向と運動遊びの視点から探る—」	単著	平成 31 年 2 月	新渡戸文化短期大学子ども教育研究所紀要第 14 号 (pp. 94～103)	子どもの体力低下に歯止めをかけるためには、幼児期や学童期の身体活動の重要性が示唆されている現状を鑑み、運動遊びに主眼を置いた幼児教育と小学校教育の接続に関する研究の動向を探った。スタートカリキュラムなど、各自治体や地域の園・小学校で工夫を凝らしたカリキュラムを構築している例が多く見られた。また、幼児期の運動の特徴と小学校体育に見る運動を、それぞれ幼児期運動指針と小学校学習指導要領を基に探り、発達段階による運動の特徴を明らかにした。
(その他) 〔教育実践記録等〕 1. 「身体活動を通して幼児の心を育む保育者の育成に関する一考察～平成 21 年度『幼児体育』の授業実践より～」	単著	平成 22 年 3 月	山村学園短期大学子ども教育センター調査研究事業報告書 (pp. 29-44)	平成 21 年度「幼児体育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の授業に関して、アンケート調査をもとに授業内容を考察し、今後保育者を育てるためのよりふさわしい授業内容の検討を行い、次年度以降の授業につなげる資料とすることを目的とし、研究を行った。考察の結果、「幼児体操のレパートリーが増えた」「ゲームや運動遊びなどのレパートリーが増えた」「作品をつくる力や動きをアレンジする力がついた」「体を動かすことの楽しさを味わえた」と回答する学生が多かった。授業の中で保育スキルを身につけたという実感が、今後現場で保育を行う際に、幼児との身体活動を積極的に行う自信となり、幼児の身体的発達や心を育てる保育者養成の一要因となることを示唆した。

2. 「社会資源を活用した町型子ども・子育て支援ネットワークのあり方に関する研究報告書 1ー平成 24 年度グループインタビュー調査報告書ー」 【平成 24～26 年度科学研究費助成事業・基盤研究 (C) 課題番号 24530773】	共著	平成 25 年 3 月	科 研 費 研 究 報 告 書 (中 間)	【平成 24～26 年度科学研究費助成事業・基盤研究 (C) 課題番号 24530773】 研究代表:鈴木孝子、研究分担者:橋本淳一、村石理恵子、羽岡佳子、山村穂高 地域環境に馴染む地域独自の子育て環境づくりを模索し、現在の種々の保育サービスづくりが子どもたちの本来の成長を支えることにつながっているのかを探るために、A県B町でグループインタビュー調査(3グループ計69名)を行った。子どもの遊びについての項目では、行っている様々な遊びの種類や場所が挙げられたが、就学後には遊びの時間が減少することが明らかとなった。また、地域性が窺える遊びが話題に上がることで、地域のつながりをつくるきっかけづくりに子ども世代も関わる事が明らかとなった。
3 「体育科模擬授業の実践が受講生の体育観に与える影響ー複数大学の教職課程履修者の比較による検討ー」	共著	令和7年3月	2024 年度茨城キリスト教大学教職課程論集 (pp. 40-44)	著者:高橋和将、羽岡佳子 診断的授業評価を手掛かりとして、体育科模擬授業の実践が受講生の体育観に与える影響を検討した。その結果、4つの観点のうち2点については、受講生の特性が影響し得ることが明らかとなった。
〔学会発表〕 1. 「子どもの遊び・遊び場と地域子育て支援ーつどいの広場利用者のグループインタビューからー」	共同	平成 24 年 9 月	全国保育士養成協議会第51回研究大会ポスター発表	共同発表者:村石理恵子、橋本淳一、<u>羽岡佳子</u>、鈴木孝子 A県B町「つどいの広場」(地域子育て支援拠点事業(ひろば型・センター型))利用者へのグループインタビュー調査から、特に子どもの遊びやあそび場のニーズについて探り、考察を行った。
2. 「子どもを持つことの意味と働き方ー地域・子ども・子育てグループつどいの広場利用者のグループインタビューからー」	共同	平成 25 年 9 月	全国保育士養成協議会第52回研究大会ポスター発表	共同発表者:橋本淳一、村石理恵子、<u>羽岡佳子</u>、鈴木孝子 A県B町におけるグループインタビュー調査から、この地域の子育てにおいて支援を利用する側と提供する側の意識や価値観、ニーズを探った。子どもを持つことの意味や働き方に関する意識の違いを明らかにした。
3. 「保育者養成における学生の身体表現に関する学びの一端ー「子どもの身体表現A」のアンケート調査よりー」	単独	令和4年5月	日本保育学会第74回大会(オンライン)ポスター発表	2021 年度前期「子どもの身体表現 A」受講者を対象に行った授業アンケートを中心に、テキストマイニングの手法に基づき分析を行った。共起ネットワーク図を用いながら傾向を探り、授業後には身体表現に対する意識の変容が見られ、意欲的な意識を育んだことが導き出された。
4. 「子育て支援プログラムへの参加がもたらす効果と課題ー学生による「絵本を題材にした身体表現遊び」の企画・実施からー」	単独	令和5年5月	日本保育学会第75回大会(オンライン)ポスター発表	2022 年度前期「子どもの身体表現 A」受講者を対象に行った WEB アンケート調査と、児童館での子育て支援プログラムに参加した親子・児童館職員を対象に行った質問紙調査の結果をもとに、分析を行い、効果と課題についての考察を行った。

〔その他論文・作成資料・エッセイ 他〕				
1.「互いに思いやり、信頼し合う友情をはぐくむ」	単著	平成 19 年 8 月	(株)文溪堂月刊誌『道徳と特別活動』2007 年 8 月号	小学校 4 年生道徳授業（資料名「いのりの手」）をもとに、道徳実践例の紹介を行っている。指導の工夫・学習指導案・授業記録などをもとに考察を行った。
2.「あいさつキラキラしよう」	単著	平成 20 年 6 月	小学館月刊誌『小二 教育技術』2008 年 6 月号	小学校 2 年生用自作資料「あいさつキラキラしよう」と学習指導案例を提示した。
3.「おばあちゃんのおいのり」	単著	平成 20 年 11 月	小学館月刊誌『小二 教育技術』2008 年 11 月号	小学校 2 年生用自作資料「おばあちゃんのおいのり」と学習指導案例を提示した。
4.「自己の生き方についての考えを深める道徳授業の工夫」	共著	平成 21 年 1 月	(財)総合初等教育研究所「道徳と特別活動の教育研究賞」	【奨励賞 受賞】 共著者：中治謙一、羽岡佳子、他 7 名 自己の生き方についての考えを深めることができるような道徳の授業について、小学校の実践をもとに考察を行った。
5.「実践例に見る特別活動と道徳の関連性」	単著	平成 21 年 1 月	(株)文溪堂月刊誌『道徳と特別活動』2009 年 1 月号	特別活動の視点から語る道徳について、実践例を用いて関連性を述べた。
6.「はっきりと いおう」	単著	平成 21 年 3 月	小学館月刊誌『小二 教育技術』2009 年 3 月号	小学校 2 年生用自作資料「はっきりと いおう」と学習指導案例を提示した。
7.私のおすすめ 「ラジオ体操 バレエバージョン!？」	単著	平成 22 年 4 月	機関紙『女子体育』平成 22 年 4 月号 (p. 58)	2009 年 4 月に発売された DVD「バレエストレッチ 西島千博」の内容について紹介した。
8.「身体表現と和太鼓—『ころ・からだ・いのち』につながる太鼓の響き (リズム) —」	単著	平成 22 年 12 月	機関紙『女子体育』平成 22 年 12 月号 (pp. 10-11)	女子体育連盟主催の全国大会で行われた、林英哲氏の講演会の記録・編集を原稿にまとめた。
9.「友達と呼吸を合わせてストレッチ」(〈実践編②ウォーミングアップ素材集〉ストレッチ①)	単著	平成 24 年 8 月	機関紙『女子体育』『保存版！ダンス指導ハンドブックⅣー心と体をほぐすウォーミングアップ集』平成 24 年 8・9 月号 (pp. 86-87)	小学校で使える、一人・二人・グループで行うストレッチを中心に、ウォーミングアップの方法をまとめた。

10. ちょっと一息 「表現運動における音楽の工夫」	共著	平成 26 年 9 月	教育出版『動きの「感じ」と「気づき」を大切に した 表現運動の授業づくり』 (p. 164)	共著者（編者）：細江文利、鈴木直樹、成家篤史、細川江利子、山崎大志 表現運動の授業を行うに当たり、音楽の存在は重要である。音楽を選択するポイントや音楽の持つ力についてエッセイとしてまとめた。
11. 閲覧室『スヌーズレンを利用しよう』『スヌーズレンの理論と実践方法―スヌーズレン実践入門』	単著	令和 2 年 2 月	機関紙『女子体育』2020 年 2・3 月号 (p. 72)	1970 年代にオランダで開発された環境設定法であり理念・実践方法である「スヌーズレン」についての説明・紹介を行った。
12. インタビュー「スポーツ×ボランティア」	単著	令和 2 年 4 月	機関紙『女子体育』2020 年 4・5 月号 (pp. 6-11)	一般社団法人 PARACUP 代表理事である森村ゆき氏に、チャリティランニング大会「PARACUP」の魅力についてインタビューを行い、その内容をまとめた。
13. 巻頭言「コロナ禍の中で描く未来」	単著	令和 2 年 10 月	機関紙『女子体育』2020 年 10・11 月号 (pp. 4-5)	新型コロナウイルス感染症との共存が叫ばれる世の中におけるダンスや文化・芸術のあり方や未来への希望などを考察し、まとめた。
14. 参加発表部門 全作品講評	単著	令和 6 年 11 月	機関紙『女子体育』2024 年特集号 (pp. 60-64)	「第 36 回全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）」参加発表部門の作品、全 46 作品中 15 作品分について、作品の講評を執筆した。
15. 論説『『集い、遊び、踊る』場としての盆踊り』	単著	令和 7 年 4 月	機関紙『女子体育』2025 年春号 (pp. 10-13)	本号でのテーマ「ウェルビーイングとダンス―集い、遊び、踊る―」に因み、盆踊りの歴史や意味について概説し、授業実践の紹介を行った。
〔舞踊作品・競技歴・演奏発表〕 (主なもの)				
1. ダンス作品『私はもうひとつの私になる―シュール・レアリスト：クロード・カウンの世界』	群舞	平成 9 年 8 月	神戸文化ホール	第 10 回全日本高校・大学ダンスフェスティバル―神戸創作コンクール部門において、審査員賞 受賞
2. 第 25 回全日本パワーリフティング選手権大会	個人	平成 11 年 5 月	阪南大学	第 25 回全日本パワーリフティング選手権大会：女子 60 kg 以下級、第 3 位 受賞 ※この結果を得て 2002 年 2 月、埼玉大学学生部長表彰を授与される
3. ダンス作品『être 一個の存在―』	群舞	平成 11 年 8 月	神戸文化ホール	第 12 回全日本高校・大学ダンスフェスティバル―神戸創作コンクール部門において、特別賞（音響）受賞
4. ダンス作品『歪んだ現実―サルヴァートル・ダリー―』	群舞	平成 12 年 8 月	神戸文化ホール	第 13 回全日本高校・大学ダンスフェスティバル―神戸創作コンクール部門において、特別賞（音響）受賞

5. ダンス作品『STRAY SHEEP～行き先のない乗車』	群舞	平成13年8月	北沢タウンホール	山口弓貴子（構成・振付）、Y'sダンスカンパニーのメンバーとして「DANCE・夢洞楽」に出演
6. ダンス作品『時のコラージュ』	群舞	平成13年12月	新国立劇場小劇場	片岡康子（構成・演出・振付） 「DH＊015」に出演
7. ダンス作品『—a b y s s—』	デュオ	平成13年12月	富山県民小劇場オルビス	TOYAMAダンス・シーン2001におけるデュオ作品であり、創作・出演を行った。 ※一般公募のうち、選考を経て出演
8. ダンス作品『耳鳴りが伝えたもの 世界が生まれる秒読みの合図』	トリオ	平成18年10月	神楽坂セッションハウス	「シアター21フェス」におけるトリオ作品であり、創作・出演を行った。 作・出演：齋藤真士・鈴木直之・羽岡佳子
9. ダンス作品『イパネマの娘』創作・出演	デュオ	平成20年5月	笹川中央保育園（千葉県）主催「おやこふれあいコンサート」【東庄町公民館大ホール（千葉県東庄町）】	「おやこふれあいコンサート」におけるデュオ作品であり、創作・出演を行った。 作・出演：羽岡佳子・田中陽子
10. リコーダー二重奏「ソナタへ長調第1・2・3楽章」（Giuseppe Sammartin 作曲）他	デュオ	平成21年1月	板橋区教育会音楽研究部第23回研修発表演奏会【成増アクトホール（東京都板橋区）】	板橋区教職員研修発表演奏会においてアルトリコーダーの二重奏を行った。 演奏者：馬場喜久雄・羽岡佳子・飯島千夏（ピアノ伴奏） ※以降、リコーダーアンサンブルは毎年1回同じ発表演奏会に出演。現在に至る。
11. ダンス作品「Is it necessary one for me?」創作・出演	デュオ	平成21年3月	埼玉大学ダンス部公演【彩の国さいたま芸術劇場小ホール】	「第8回埼玉大学ダンス部公演」におけるデュエット作品であり、創作・出演を行った。 作・出演：羽岡佳子、斎藤あおい
12. ミュージカル「A COMMON BEAT」出演	団体	①平成22年7月 ②平成23年7月	NPO法人コモンビート主催 昭和女子大学人見記念講堂	「100人100日ミュージカル」のプログラムにキャスト・スタッフとして参加。歌のソロにも抜擢された。ダンスや歌・演技の練習を通して、表現の技術や多種多様な人とかかわるスキルが向上した。
13. ミュージカル「Here, we…」出演	団体	平成26年4月	NPO法人コモンビート主催 豊島公会堂・長野県阿智村	NPO法人コモンビートの創立10周年を記念して創られたオリジナル作品である。キャストとして参加した。特にダンスシーンに多く出演。
14. ミュージカル「モーツァルト！？」出演（準主役）	団体	平成28年11月	劇団モーツァルト制作 JOYJOY STATION（東京都練馬区）	音楽座「マドモアゼル・モーツァルト」を参考としたオリジナル作品。主催者の推薦により、準主役であるコンスタンツェ役を務めた。芝居・歌の場面が多く、稽古期間は短期間であったが、個人的に声楽レッスンに

15. GOKIGEN Nippon 主催『GOKIGEN 祭り』出演	団体	令和元年 12 月	東京カルチャー ーカルチャー	通うなど努力を重ねた。手作りの公演であったため、スタッフとしてチラシづくり、稽古場探しなどを担当した。その経験は、新渡戸文化短期大学「身体表現特講」におけるオペレッタ指導や実践女子大学「保育内容 f (表現)」における劇指導に役立っている。
16. 「2024 IAHPEDS WORLD CONGRESS」オープニングセレモニーに出演	ソロ	令和6年7月	東京学芸大学	「100 年先も、凜としてたくましく ゴキゲンな日本を。」というビジョンを掲げて日本を旅して生き方を探る、舞台創作プログラムを展開している団体である GOKIGEN Nippon 主催のイベントにて、オリジナルダンスを踊るダンサーとして出演。
16. 「International Conference Workshop on Physical Education and Sports & Exercise Science 2024」表彰式（クロージングセレモニー）に出演	ソロ	令和6年12月	東京学芸大学	IAHPEDS (INTERNATIONAL ALLIANCE FOR HEALTH, PHYSICAL EDUCATION, DANCE, AND SPORT/健康、体育、ダンス、スポーツの分野で、世界中の研究者が集結している国際学会) のオープニングセレモニーにて、日本舞踊『京の四季』を披露。海外の方に喜んでいただけるよう、舞妓の踊りを選び、振袖や日本髪で発表した。また、オープニングセレモニーで配付するプログラムを英語で作成し、委員や開催に助力した。
:				国際学会「International Conference Workshop on Physical Education and Sports & Exercise Science 2024」表彰式（クロージングセレモニー）にて日本舞踊『藤音頭』を披露。英語で踊りの説明も行った。

(注) 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。